

天平写経の最優品を影印、原寸・原色で白点・朱点を完全再現

# 金光明最勝王経序品第一

三藏法師義淨奉制譯

如是我聞。一時薄伽梵在王舍城鷲峯山頂。

於最清淨甚深法界諸佛之境。如來所居與化城第三重。

大苾芻衆九万八千人。皆是阿羅漢能善調伏。

伏如大烏王諸漏已除無復煩惱心善解脫。

慧善解脫所作畢。舍者重答承導。列盡。

# 国宝 西大寺本 金光明最勝王経

天平宝字六年  
百濟豊虫願經

総本山西大寺 [編]

種智院大学教授  
佐伯俊源・月本雅幸・野尻忠 [解題]

東京大学教授  
奈良国立博物館学芸部

勉誠出版

慧善解脫所作已畢捨諸重擔遠得已利益盡  
諸有結得大自在住清淨威善巧方便智慧  
具福智二年故立最初五比丘  
莊嚴證入解脫已到彼岸其名曰具壽阿若  
別句  
庄託也 懈陳如具壽阿說侍多具壽婆証波具壽摩  
大云大名  
訥那摩具壽婆帝利迦大迦擣婆優樓頰螺  
大云善與是  
迦擣伽耶迦擣那提迦擣舍利子大目乾連  
具上十六句初十句  
唯阿難陀住於學地如是等諸大聲聞各於  
晡時從定而起往詣佛所頂礼佛足右繞三  
而退坐一面

菩薩復有菩薩摩訥薩百千万億人俱有大威德

# 出版にあたつて

天平宝字八年（七六四）九月十一日、藤原仲麻呂反乱の勃発に際し、時の称徳女帝は反乱鎮圧を祈念して四天王像の造立を誓願されました。翌年、七尺金銅製の件像を铸造され、それを機に父聖武天皇創建の東大寺に倣つて、宮西の地に鎮護国家の一大伽藍を開創されました。これが西大寺開創の由来です。

四天王について説く代表的経典が金光明經です。金光明經には、国王がこの經典をよく受持・読受し仏法を深く恭敬・供養すれば四天王がその國を擁護し、災難・衰患・怨賊を除くという四天王護国思想が説かれており、仁王經、法華經とともに護国三部經として盛んに信仰されました。この經典の諸訳中、奈良朝の日本佛教に大きな影響を与えたのは、八世紀初に唐・義淨三歳が訳出した『金光明最勝王經』十巻であつたとされます。入唐求法して七一八年帰国した道慈律師が新訳の最勝王經をいちはやくわが国に請來し、この經文の功德に基づき天平十三年（七四一）には国分寺建立の詔が發布されました。国分寺は「金光明四天王護國之寺」を正式名とし、七重塔に最勝王經を安置し毎月この經を転読して護国信仰が宣揚されました。また、奈良時代後期には宮中大極殿で毎年正月八〇十四日に最勝王經を講説する御廟会も創始されました。

以上のように金光明最勝王經は、奈良時代の鎮護國家佛教の根幹をなす經典であり、西大寺の創建はそのような奈良朝の護国佛教の一つの帰結であります。

## ○推薦のことば

湯山賢一 奈良国立博物館館長

我が国に伝来する古典籍の中でも、とくに仏典は、教理上は元より、それを書写、読誦することが功德として、古来より多くの御願經や一切經が書写、刊行されてきた。西大寺所蔵の国宝『金光明最勝王經』もその一つである。

しかし、こうした貴重な文化財原本に直接学ぶ機会に恵まれることは難しい。それは文化財が保存を前提として、その公開利用が制限されているからに外ならない。この類題に研究活用の立場から大きな道筋をつけてくれたのが本書である。天平宝字六年（七六二）二月八日、百濟蟲が両親供養のため発願した本經は、表紙外題を完備し、本文は端正にして雄勁な天平写經を代表する優品である。本經の願文と光明皇后「五月一日經」の願文との類似性から願主豊虫の人物像についてが語られている。とくに本經には、全文にわたり稠密に付された白点・白書書入れ、朱加点（永長二年（一〇九七））がみえている。これらは平安時代前期から南都で用いられた訓点・仮名の読法を示す貴重なものとして、国語学上によく知られている。

この度、原本の持つ料紙の特徴までを理解可能なフルカラー原寸影印版が、佐伯俊源氏・月本雅幸氏・野尻忠氏の解題を得て刊行されるることは、更なる研究の発展に裨益するものとなることであろう。

## 訓点語研究の新しい地平

木田章義 京都大学大学院教授・訓点語学会会長

春日政治博士が『西大寺金光明最勝王經の国語学的研究』として、写真版・訓読文・解説・索引を刊行したのは、昭和十七年。勉誠社がこの資料の重要さを惜しみ、昭和四十四年、昭和六十一年と再刊したが、白黒写真の限界があり、白点に不明瞭な部分があるもどかしさも残った。今回のカラー版は最新技術を利用して精細に複製されているので、不明瞭であった部分はほとんど確認ができる。白粉の濃淡も、墨の上に白粉が載っている様子も、湿気によって紙に染みこんだ様子も見える。白黒写真では判別が困難だった朱点が明瞭であり、白点との読みの相違も読み取ることができるようになった。

訓点語というと特殊な世界と思われがちだったのは、限られた研究者しか見られない状況に依るところが大きかった。原本を精緻に再現したカラー版があれば、研究者共存の資料として、共同して分析し、議論できるようになる。訓点語研究の新しい地平が開けたと言つても良い。

訓読文は翻訳文でもあるので、当時、あるいは少し前の日本語の実態を反映している。特に、平安初期の文草は訓点本以外には残っていないので、本書に現れる言語現象は極めて貴重である。春日博士によつて訓読文は提示されたが、当然、訂正すべき處もあるであろうし、行間や頭書に書かれた多くの情報は利用されないまま終つてゐる。この精細な複製によつて、平安時代初期の文法、語彙、文体研究の新しい情報が大量に得られるだろう。どれほど貴重な資料であるかは、春日博士の解説を一読すれば瞭然である。例えば、本資料では一つの物語の冒頭・末尾はキが、その中間はケリが用いられ後の『竹取物語』等の物語とは異なつてゐるという指摘があるが、これが時代差か、文体差なども非常に興味深い。また、ケリが「来+アリ」由来であるという説にも加担したくなるだろう。行間の注記から使用された辞書の種類も分かる可能性もあり、訓読法についても新見が期待できる（春日博士は説明を省くが、再説文字も見える）。

本書と訓読文と並べて読むことによつて、本資料の価値と共に、春日政治という偉大な学者の存在も再確認できることだろう。

西大寺には天平宝字六年（七六二）二月八日に、宫廷の女官であつた百濟蟲が両親の追善のために書写した『金光明最勝王經』十巻が伝来しています。西大寺は創建当時の文物を殆ど亡失してしまつていますが、奈良朝写經の優品が伝存していることは稀有なる僥倖です。本写經には平安時代の白、朱の訓読点や白書の注記が多数施されており、講説注釈の為に綿密に研究されたことも窺われます。

国語学・訓点語学の上の第一等資料として古くより学界で注目され、春日政治氏『西大寺金光明最勝王經古点の国語学的研究』（昭和十七年刊）は国語学・訓点語学の金字塔として高い学問的価値を有しています。しかしそ後の半世紀の間、当本の本格的な原本調査は行われていません。このたびの全巻にわたる影印出版は学界に裨益するところ大であると確信します。これを機に諸方面的研究が進展することを期待いたします。

眞言律宗管長  
総本山西大寺長老 大矢實圓

金光明最勝王經卷第十

喜信受奉行

余時無量無邊恒沙大衆聞佛說已皆大歡

喜信受奉行

金光明最勝王經卷第十

鶴臘院鷲禪鑑頂齋門下便香

金光明最勝王經卷第十

〔卷十卷末〕

# 国宝 金光明最勝王経

天平宝字六年  
百濟豊虫願経

写本・十巻。各巻縦約二七・〇センチ、全長六七八～八九一センチ。端正で美しい筆跡により書写された天平写経の最優品。各巻巻尾の識語（願文）より、天平宝字六年（七六一）、百濟豊虫が両親の菩提を祈願して書写させたものと知られる。

全巻に亘り白墨・朱により加点・書入がなされており、同経の読誦・理解のあり方を現在に伝えている。特に白墨は平安初期（九世紀）のものと推測され、詳密さ・明瞭さにおいて他に類するものがない」とからも、当該期資料の最高峰といえる。また、朱点は仮名とヲコト点（喜多院点）より成り、永長二年（一〇九七）の加点奥書を有している。

発願者の百濟豊虫については、他の資料に見出すことが出来ないが、本経巻の願文が、光明皇后発願による「五月一日経」のそれと酷似する」とから、光明皇后もしくは称徳天皇周辺の人物かと推測されている。

## 全国の国分寺に配布された『金光明最勝王経』

『金光明最勝王経』は、四天王をはじめとする諸天善神による國家鎮護を説く經典である。唐の義淨が長安三年（七〇二）に漢訳し、日本には養老二年（七一八）にもたらされた。

奈良時代において、鎮護国家思想の思想的バックボーンとして最も重要視された經典のひとつであり、聖武天皇は『金光明最勝王経』を写経させ全国に配布、また、天平十三年（七四）に全国に建立された国分寺（金光明四天王護國之寺）では同經の読誦が行われた。

## 本書の特長

- 天平写経の最優品、国宝『金光明最勝王経（天平宝字六年百濟豊虫願経）』（西大寺所蔵）の全編を原寸・原色で影印。日本史・国語史・仏教史・文化史等に関する絶大な資料的価値を有する本経巻のフルカラー全編公開は史上初である。

- 高精細な製版・印刷により、流麗な筆致、詳密に付された白点・朱点を忠実に再現。
- 佐伯俊源（日本史）・月本雅幸（国語学）・野尻忠（文化財学）の諸氏による解題を付し、本経巻の歴史的・文化史的位置づけを示した。

## 国宝 西大寺本 金光明最勝王経

天平宝字六年百濟豊虫願経

総本山西大寺〔編〕

本体 100000円(+税)

A3判変形(310×410mm×310mm)  
上製・クロス装・函入・三七二頁  
ISBN978-4-585-28505-2 C3081

注文書

国宝 西大寺本 金光明最勝王経  
天平宝字六年百濟豊虫願経 総本山西大寺〔編〕

本体100,000円(+税)  
ISBN978-4-585-28505-2 C3081

ご氏名・ご住所

部数

書店印